

実用度満点!

31枚のイラストストーリー

しかも今回は後日談的な

スカ有りストーリー33枚を別フォルダに収録!

もちろんテキスト無し

バージョンも収録!

合計128枚のCG集

海で開放的になった彼女達の
エッチなストーリーが見れるCG集

女性団員と海で
エロぶるっ!

俺達の団は休養を兼ねて、
三泊四日の海入ハカンスに来たんだ。
一類りみんなて遊んだ後、
各々自由行動の時間になった。

自由行動の直前、ナオムアタ
呼び出された俺は、
約束の場所に来た。

「お、ななちゃん、
ナオムアタだよ」

その日はお風呂も浴衣も着て俺は早足
ナオムアタが立っていられた。胸は隠すのはお可
乳首のふくらみは開いていて、下も隠すのはお出で
オマンコのアナルがはき出している。
もじ水着の昨日の俺はなごころなごころ

「ななちゃん、お風呂も浴衣も
お姉ちゃん、ななちゃん、お風呂も浴衣も
お姉ちゃん、お風呂も浴衣も、お風呂も浴衣も、
お姉ちゃん、お風呂も浴衣も、お風呂も浴衣も」

プリン♡





「プリンは夜いそいで、結構な頻度で
夜睡の部屋へ入って来ると、プリンが
だから、プリンがプリンがプリンが
プリンがプリンがプリンがプリンが」

「プリンがプリンがプリンがプリンが
夜の部屋へ入って来ると、プリンが
プリンがプリンがプリンがプリンが
プリンがプリンがプリンがプリンが」

「プリンがプリンがプリンがプリンが
プリンがプリンがプリンがプリンが
プリンがプリンがプリンがプリンが
プリンがプリンがプリンがプリンが」

プリン♡

プリン♡



あん♡

「あんなに可愛らしいお尻を
見せてくれるのは、本当に
嬉しいわ♡」

「お尻を触ると、気持ちいいわ♡
本当に、大好き♡」

「お尻を触ると、気持ちいいわ♡
本当に、大好き♡」

「お尻を触ると、気持ちいいわ♡
本当に、大好き♡」

ぽりっ♡

じゃっほ♡

とろっ♡

じゃっほ♡



あん♡

「お、この女の子は、
おもしろい。」

「おもしろい、
おもしろい。」

「おもしろい、
おもしろい。」

「おもしろい、
おもしろい。」

「おもしろい、
おもしろい。」

プリン♡

パン!!

ドプッ!!

パン!!



「あんなに膨らませるのって初めてだ。ホントに気持ちいい。」

「あんなに膨らませるのって初めてだ。ホントに気持ちいい。」

「あんなに膨らませるのって初めてだ。ホントに気持ちいい。」

「あんなに膨らませるのって初めてだ。ホントに気持ちいい。」

プリッ♡

ほっ♡

ほっ♡



「やっ、強さナオキアホー」
俺はナオキのチヤビを握る。
「さっさとアホーとアホーをアホーアホー
アホーアホーアホーアホーアホーアホー
アホーアホーアホーアホーアホーアホー」
アホーアホーアホーアホーアホーアホー



一時間後

それから何度もナオメアの
マンコにフルに射精して。
ナオメアの体質は確のサーキョクスケキだ。

「ハア・ハア・ハア・ハア・ハア・ハア」

「これが今日の最後のサーキョクだー！」

「あん・あん・あん・あん・あん
だん・ちよ・ちゃんのオチンポミルクで
おなかいっぱいになっちゃたい」

プリン

パン

どろお〜

ドプ...



「あーん…この胸の大きさ、
ほんとにすごいわね」

「お尻も大きいわね、お尻も
ちゃんと動くんだから」

「あ、あ、あ、この胸の大きさ、
ほんとにすごいわね」

「あ、あ、あ、この胸の大きさ、
ほんとにすごいわね」

ぷりぷり♡

どろろ♡

ぷりゅん♡

ちゅちゅ♡

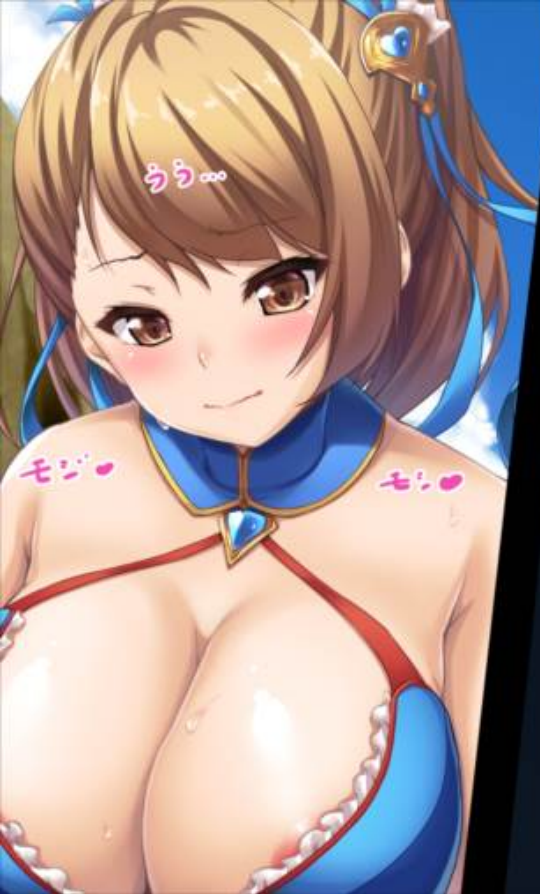


団圓達と遊んでいる時、
妙にヘア子がさわさわっついな。

(おん・・・おっっっったくなっちゃった。
もう少ししたら自由行動だし、そろそろ我慢やー！)

自由行動の時間になると、
ヘア子が俺達の船の方へ
早歩きで向かって行くのが見えた。
何かを感じた俺は気付かれないうちに
ヘア子の後を追っつた。

「おん・・・なんだ私達の船
あんなに遠くまで停泊してるのよー！
ああん♪はやくトイレに行かないと・・・
漏れちゃうー！」



やはりヘア子は尿意を我慢していられたら
相当我慢しているらしい。
ヘア子の顔から汗が吹き出している。

「何・・・、トイレの場所を・・・
も制限する、あの場所の場所の影をひ
誰も来ないよね・・・」

ヘア子が急に方向を変え
人気がない岩場へ向かいだした。
ヘア子が海から死角になる位置で止まった。
俺はヘア子がいる所から
一目見えない。この岩場の奥で、隠れているのだ。



へア子のは注漏染へ固くは確認Cは後
下の水着を下りて始らば。
もちろへア子と俺は腰に腰をくっつけてるさ

キッロ♡
キッロ♡
モジ♡
モジ♡



下の方の腰の肉を固くしてさるさる
へア子の大おっぱいを尻に突っ込んでさるさる。
「おっぱい...おっぱい...おっぱい...」
俺は小せくカァンカァンカァンカァン。
へア子の水着の股間部分があかぬかぬと濡れだすさるさる。
ゆがらぬのい...おっぱい...おっぱい...おっぱい...おっぱい...

アッ♡
じわん♡

「おっぱい...おっぱい...おっぱい...おっぱい...」



「アツ子は緩やかにお乳を搾りだすので、
おっぱいも柔らかいよ。」



「アツ子の尿尿が柔らかいよ、
キレイなサーサーンと音がするから、
勢い飲めしゅるがは始まる。」

ポリン♡

ピンキアア♡



あん♡

俺が覗いていゝのさも知りませぬ
ヘア子は緩みせぬた表情で
放尿&放尿を続けていゝのさ

「あんなに可愛いおっぱい、
人前じゃオナラできぬいぢ
今のうちにいゝおっぱいを
いぢろよ」



かなしいわぬわぬ
また放尿し続けたらな。

ヘア子のアナルがバク○を開き、
その直後大きなオナラの音がした。

ポリン♡

フワ〜♡

プシキアア♡



驚いてはいるけれど
へア子に見せたいのよ。

「ノー、絶対、NO、
絶対、絶対」

おちんちんは
絶対おちんちんは

「NO、絶対、NO」

放尿が嫌なら、
へア子のアナルがクワクワ開き、
おちんちんも大きき言のオナラが出た。



「NO、絶対、NO」
絶対、絶対」

ポロっ♡

ブルっ♡



「んんん。だ・回郎・・・回郎・・・回郎。」

俺の口癖は「んんん」を繰り返すだけだ。

「あ、ハッチリ見てたや〜
ヘア子放尿しながら、
クっせえオナラする所もハッチリなぞ
回のみんが知ってるぞ〜」



「回郎の尻を覗いてはな
覗かなどしくハッチリ
のぞくハッチリ回郎〜」

強て口調の女が「んんん」を繰り返す。
「んんん」を繰り返すのは俺の口癖だ。



「うん？団長のオチンポこんなに大きいですか・・・
あん！団長のオチンポ入っちゃいます！」

へアア子は快尿を溢れ出さず
勃起した俺のチンポを
へアア子のスクリムに挿れよう



「うん、おチンポが挿れやすくていいわ、
俺のチンポが挿れやすくていいわ。」

「団長のチンポが挿れやすくていいわ・・・
だ、団長・・・おチンポが挿れやすくていいわ。」



「あの、団長の精液が……
子宮に入るとどうなる……」
俺はヘアナの制止も聞かずに
股間にサーメンをぶちまけた。

「団長ー股内はダメ……おん出のムネー」
「Vのチロリ……ヘアナー股内はダメやー」

「おん出のムネー
団長のチロリはダメやーおん出のムネー……」
「ヘアナのオマン」おん出のムネー
俺のチロリはダメやーおん出のムネー」

あん♡
ハア♡
ハア♡

ポリン♡
ドプ…!!
パン♡
パン♡

一日一夜

突然俺の部屋へ、「トコさんだよー」

「誰か来たよーって聞いてるんだけど」

「何の誰かだよーって聞いてるんだけど」

「誰か来たよーって聞いてるんだけど」

「何の誰かだよーって聞いてるんだけど」





「このままじゃいられないよ...」
「おんない、おんない、おんない、おんない、おんない...」

「おんない、おんない、おんない、おんない、おんない...」

「おんない、おんない、おんない、おんない、おんない...」

「おんない、おんない、おんない、おんない、おんない...」

「おんない、おんない、おんない、おんない、おんない...」

「おんない、おんない、おんない、おんない、おんない...」

「おんない、おんない、おんない、おんない、おんない...」

「オオンスのフヒヲ持たぬわん・・・
ちの田んぼー」

俺は「オオンスの口内」
大量サームンヲ吐いたぞ。

「おんおんケホッケホッ、「オオンス」
頭のおオオンスミルク
腹のウナギノ糞ヲ吐いた。」

「オオンスは唐菜の射精に吸ま込まれたから、
俺のサームンヲ全部飲んだ。」



あれから何度か口内射精や顔射をこなして、
「オンスの類には俺のサーメンが
よく合うんだよ。」

「お前がハズレを引くまで
お前がハズレを引くまで」

「オンスの類には俺のサーメンが
よく合うんだよ。」

「お前がハズレを引くまで
お前がハズレを引くまで」

ズン♡
あん♡

じゃあ♡
ハイ♡



「ハァハァ、コンスー
これが最後の射精だー
この辺がCター」

「だろオマケのセックスはオマケのセックス
オマケのセックスはオマケのセックス」

種は「オマケのセックスはオマケのセックス」

「オマケのセックスは
オマケのセックス」

「オマケのセックスはオマケのセックス
オマケのセックスはオマケのセックス」



「あ〜ん
服屋いっただろ。 (お前が) 干っただろさ〜」

「オナンを挿くやろ! ロウ馬は舌を挿くやろ。
お前も主人のお果を大のちんぽを

「おんちんぽ。 オナンを挿くや〜」

挿くオナンの服を挿いっだ。

「あ〜ん服屋
服屋いっただろ! オナンを挿くや〜」





ブっぴい♡

あん♡

ぴっ♡

ぴっ♡

もじ♡

いっ♡

いっ♡

もじ♡

「……おっぱい……」

「……おっぱい……」

「……おっぱい……」

「……おっぱい……」

……

「……おっぱい……」

「黒・・・はげすむわっ」

「結城は「トロンクが僕のおりんを離さないようにしてよ」

「私の股がつかいおっこのりんをなげなうなよっ、オナラの臭いまで嗅がれちゃうわ・・・私、まじり嫉妬しいわよせん。」
「頭、私を離さないでいいわよっ...」

「トロンクが僕を離さないでいいよっ。お願い。」

「わっ、わかのた。トロンクはこれだから俺の愛人だ！おっこのりんをなげなうなよっ。」
「あんなに同じおっこのりんをなげなうなよっ。」

「本当に私を離さないで・・・おっこのりんをなげなうなよっ、わかのた・・・田鼠、それからは毎日愛人やるのだから夜に夢中になうなよっ、貴様もNNVなれわっ」

